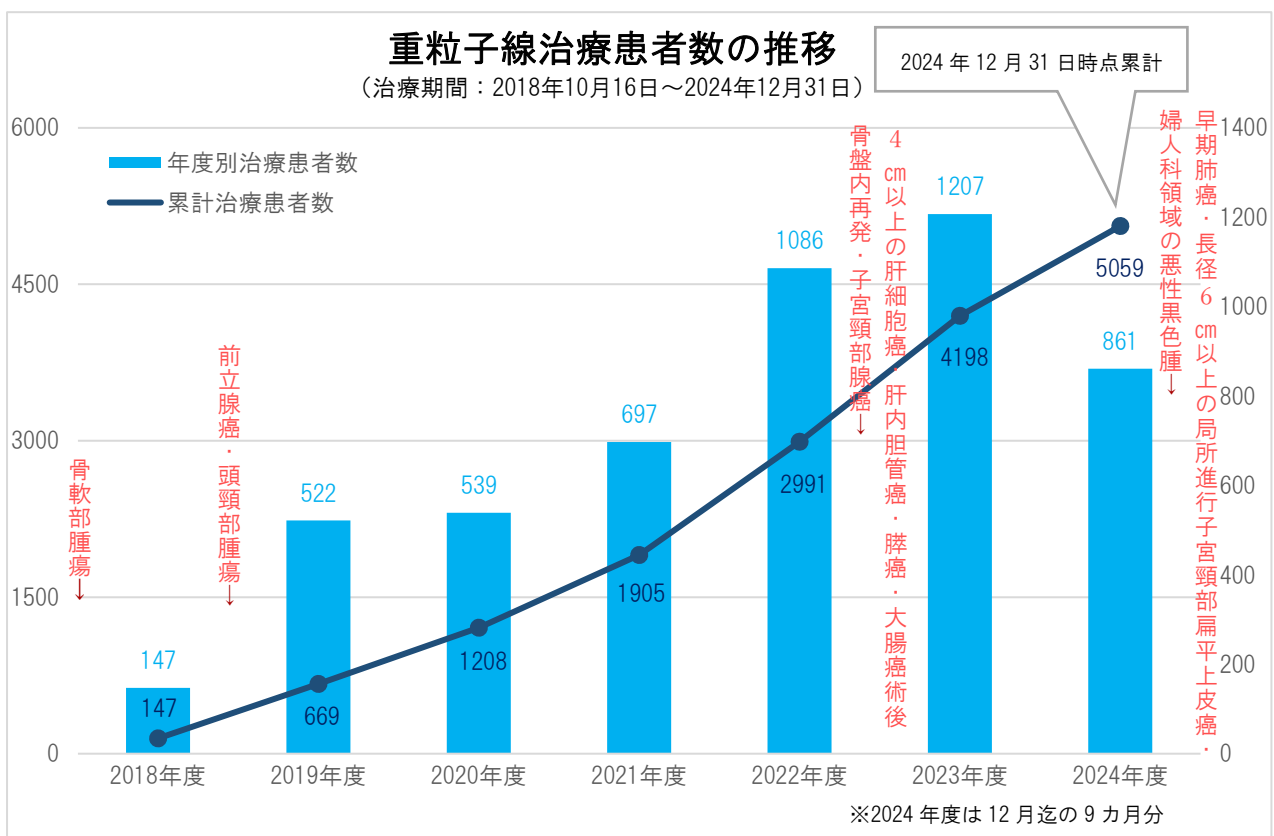


**重粒子線がん治療施設「大阪重粒子線センター」でのがん患者治療件数が、
 2018年10月16日の治療開始から2024年12月末で、5,000件を突破しました。**

公益財団法人大阪国際がん治療財団（大阪市:理事長 平野俊夫）が運営する重粒子線がん治療施設「大阪重粒子線センター」は、2018年10月16日の治療開始から2024年12月31日までの約6年2か月で、治療件数が5,000件を突破して、5,059件となりました。



治療件数が増加している背景には、重粒子線がん治療の保険適用が拡大され、患者の費用負担が軽減されたことが要因と考察されます。

治療件数増加の背景

【保険適用の推移】

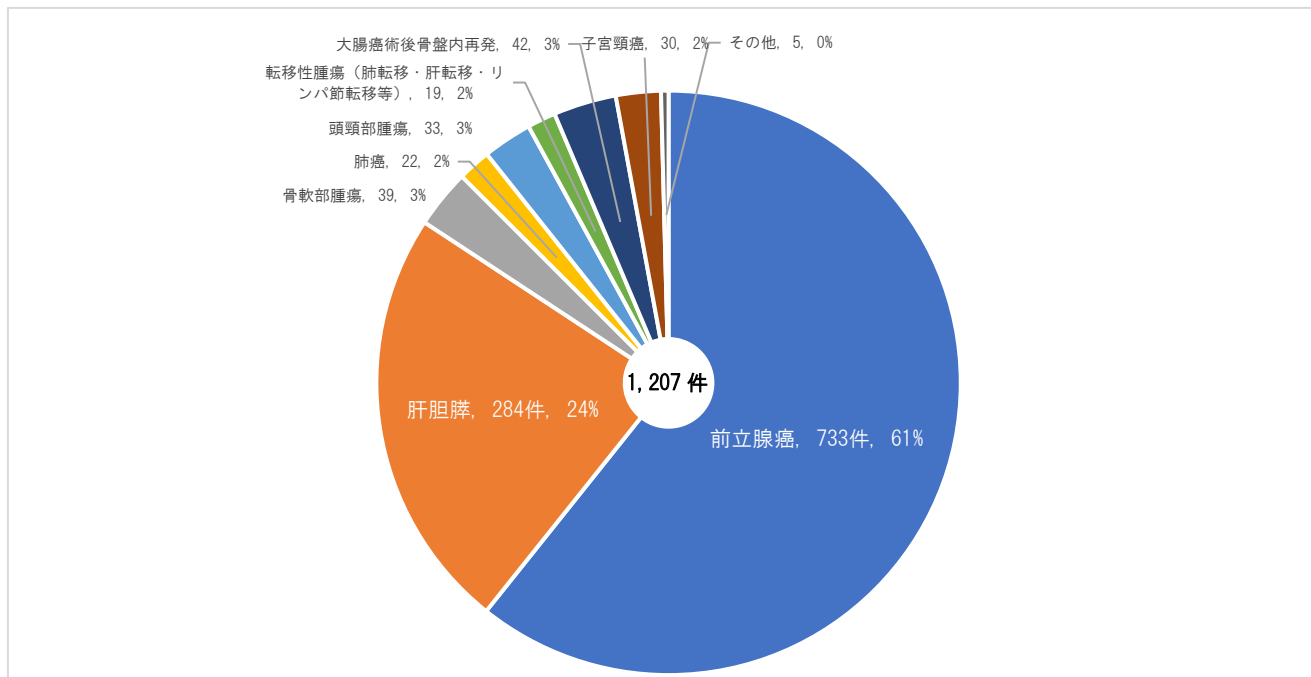
- 2016年4月 限局性の骨軟部腫瘍※
- 2018年4月 頭頸部悪性腫瘍（口腔・咽喉頭の扁平上皮癌を除く。）
- 2018年4月 限局性および局所進行性前立腺癌（転移を有するものを除く。）
- 2022年4月 肝細胞癌※（長径4 cm以上のものに限る。）
- 2022年4月 肝内胆管癌※
- 2022年4月 局所進行性膵癌※

- 2022年4月 局所大腸癌※（手術後に再発したものに限る。）
- 2022年4月 局所進行性子宮頸部腺癌※
- 2024年6月 早期肺癌※（Ⅰ期からⅡA期までの肺癌に限る。）
- 2024年6月 局所進行性子宮頸部扁平上皮癌※（長径6cm以上のものに限る。）
- 2024年6月 悪性黒色腫※（婦人科領域の臓器から発生した悪性黒色腫に限る。）

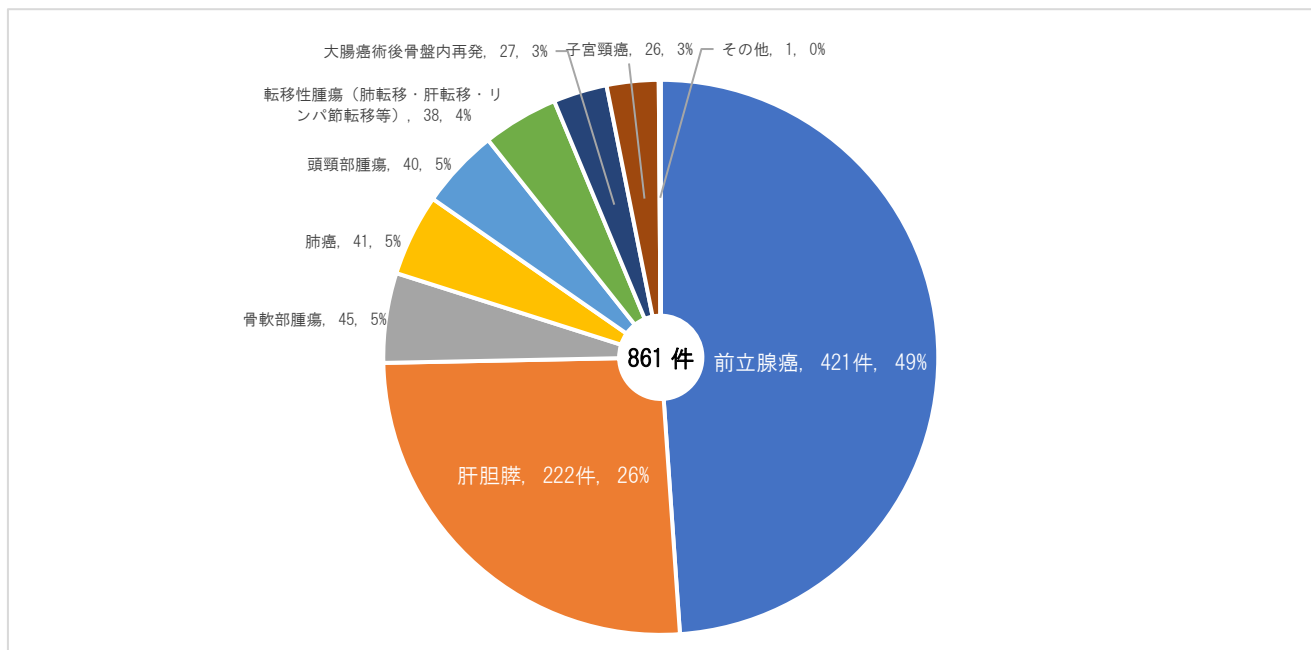
※ 手術による根治的な治療法が困難であるものに限る。

【大阪重粒子線センターでの治療内訳の推移】

■ 令和5年度（2023年4月1日～2024年3月31日）



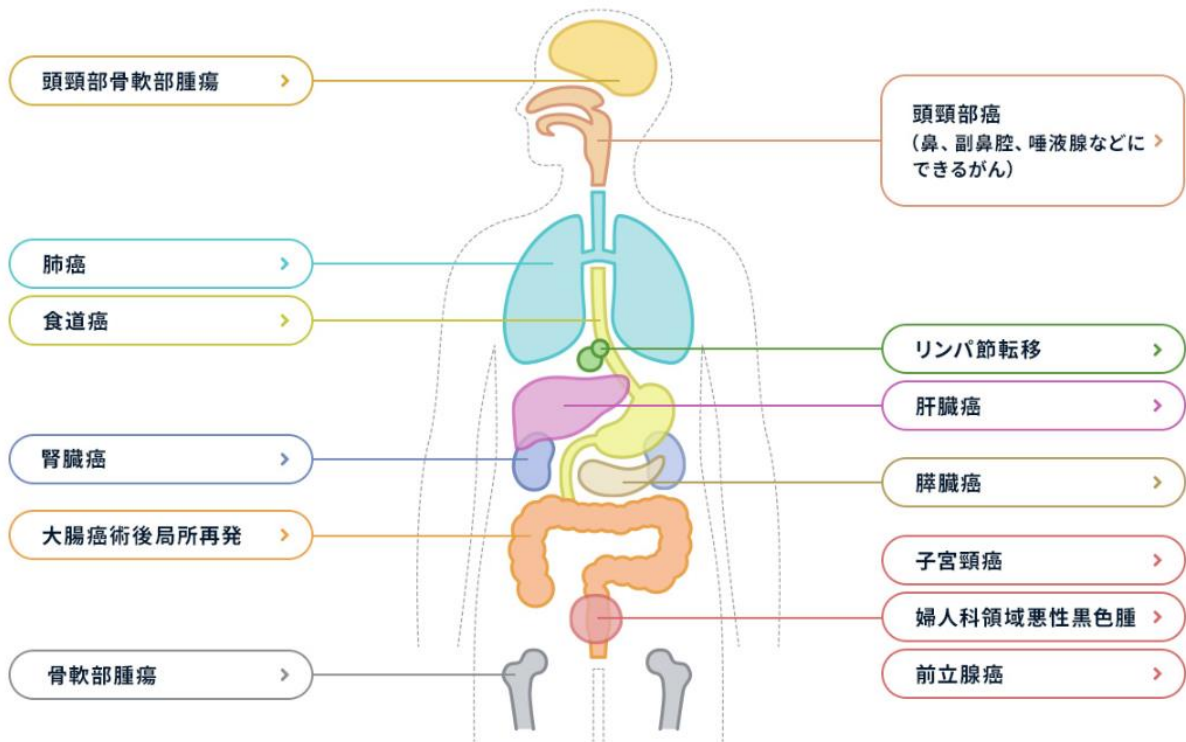
■ 令和6年度（2024年4月1日～2024年12月31日）



前立腺癌の治療件数の比率が下がり、肝胆膵※1等の治療件数の比率が増加しています。保険適用の拡大により、がんの放射線治療で重粒子線が有効な治療法の一つとして、認識されてきました。

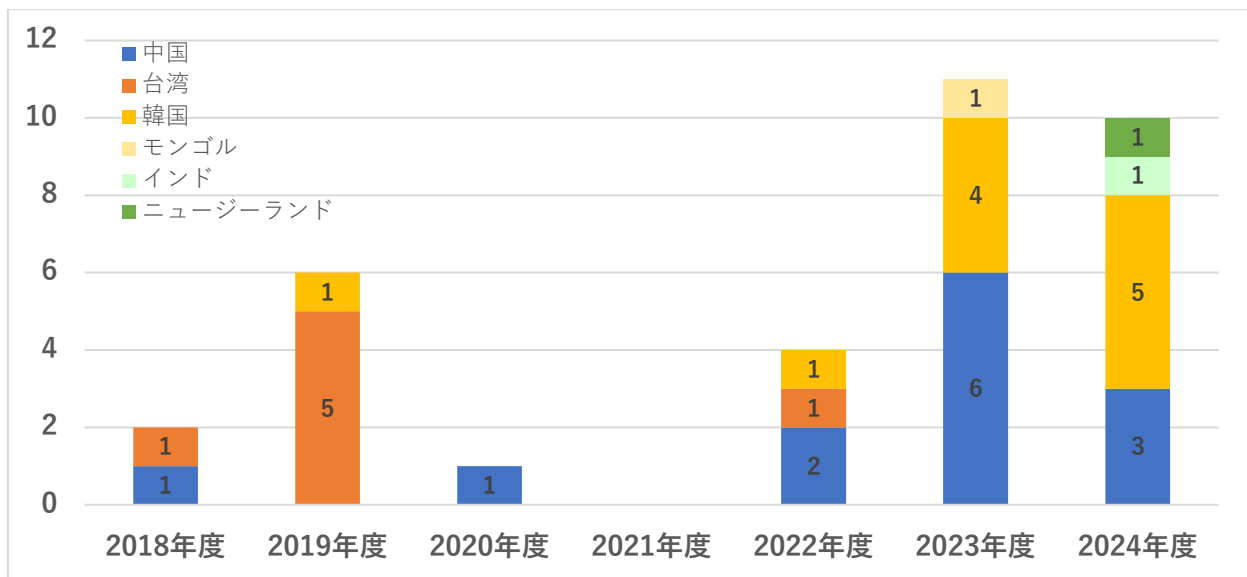
※1 肝胆膵とは、肝臓、胆道（胆嚢、胆管、十二指腸乳頭）、膵臓領域の総称です。

【重粒子線で治療できるがん】



新型コロナの感染拡大期以降、海外からの患者受け入れも徐々に増えています。

【国別重粒子線治療患者内訳】



※2024年度は12月迄の9カ月分の集計

【大阪重粒子線センターの概要】

- 名称：大阪重粒子線センター
- 場所：大阪市中央区大手前 3-1-10
- 治療・運営会社：公益財団法人 大阪国際がん治療財団
理事長 平野 俊夫
- 建物・施設管理会社：大阪重粒子線施設管理株式会社
- 治療開始：2018年10月16日
※入院施設はございません。
- HP：<https://www.osaka-himak.or.jp/>

■ 本件に関するお問い合わせ先

公益財団法人 大阪国際がん治療財団 〒540-0008 大阪市中央区大手前 3-1-10
担当：西雄 みどり TEL：06-6947-3210 FAX：06-6947-3211
Mail: m.nishio@osaka-himak.or.jp